

2024 年度市民福祉講座第 1 回

「地球の持続可能性に貢献する農業～安心安全な地産地消を目指すために」
食料安全保障の深刻な現状を知ろう！「食べることは生きること」

世界で最初に飢えるのは日本
～食の安全保障をどう守るか～

2024年7月27日下関市社会福祉センター

講師 鈴木宣弘氏

(東京大学特任教授)

2024 年度 市民福祉講座 1 高齢社会をよくする下関女性の会(ホーモイ)
地域の持続可能性に貢献する農業～安心安全な地産地消を目指すために～ 第2弾

食料安全保障の深刻な現状を知ろう! 『食べることは生きること』

世界で最初に飢えるのは日本
～食の安全保障をどう守るか～

2024 7/27 土 500円

13:30~15:30 (受付開始 13:00)

会場 下関市社会福祉センター 4F 大ホール

講師 鈴木宣弘氏
東京大学 特任教授

後援: 下関市・下関市教育委員会・下関市社会福祉協議会・男女共同参画ネットワーク下関サンシャイン21
認知症を地域で支えるまちづくり下関ネットワーク委員会

*チケットは会員から、お求めください 連絡先: TeI・Fax 083-253-4892 (田中隆子)



会場いっぱい 200 人を超える参加者で、盛会裏に終えることができました。

講演内容の要旨は、「日本の食料自給率は、種や肥料の自給率の低さも考慮すると 38%どころか 10%あるかないかです。海外からの物流が低下したら、世界で最も餓死者が出る国との試算もあります。本来は国内生産を増強しなければならないのですが、輸入肥料などのコストが倍増しているため経営が成り立たず、廃業が激増しかねない」と現状を語られました。そして「今こそ地域の種を守り、生産から消費まで『運命共同体』として地域循環型で農と食とを支えるローカル自給圏を作り、学校給食を核に自治体の政治・行政、心ある企業と連携して地域で奮起し、地域のうねりから国全体のうねりにする必要があります。」と訴えられました。



アンケート回収率は61%で、とても関心のある内容だったと思います。皆さんの意見を一部抜粋します。

★命を守るのは武器ではなく食料という考え方を国民一人ひとりが自覚すること。学校給食を国産品で受給する取り組みを拡げる。農業の伝承ができなければ日本の文化も潰れてしまう。

★難しいことはできませんが、周りの人に今日聞いたことを広めたいと思いました。そして農業・漁業を応援するぞ！！そして結局は政治が大切だと思う。「豊かさ」とはなんだろうか、子どもの未来を考えてみんなで取り組んでいきたい。

★日本の食は厳しい状況だということ、飽食の時代と勘違いしているのではないか、心のゆとりもなく共食が個食になり、本当に大切にしなければならないことに気付くことができない社会になってきていることが悲しい。

★衝撃的なお話でしたが、聴いておかなければいけないお話だと思いました。

★とても良いお話を聴くことができました。国にとって都合の悪い事実はなかなか皆が知るようになりませんね。介護の厚労省と財務省も同じ構図です。

★「無知は罪」ということを強く感じました。

★一人ひとりが深く考え問題意識を持ち、自分のできることを行動に移すことが大事だと思いました。

★「食べることは生きること」等々。

